Prunus × *oneyamensis* Hayashi in J. Jap. Bot. **29**: 150 (1954).

Type: [Japan]. Hondo (= Honshu). Prov. Kozuke (= Gunma Pref.): Mt. Oneyama. Yasaka Hayashi, May 10, 1953 (Govern. Forest. Exp. Stat.).

The putative parents are *C. apetala* (Siebold & Zucc.) H.Ohba var. *apetala* and *C. sargentii* (Rehder) H.Ohba.

nothovar. **takasawana** (Kubota & Funatsu) H.Ohba, comb. et stat. nov.

Prunus × *takasawana* Kubota & Funatsu in J. Geobot. (Kanazawa) **14**: 7 (1965).

Cerasus × *takasawana* (Kubota & Funatsu) H.Ohba in J. Jpn. Bot. **67**: 279 (1992).

This seems to be a putative hybrid between *C. apetala* var. *pilosa* (Koidz.) H. Ohba and *C. sargentii.*

1) ミヤマザクラとオオヤマザクラの雑種と推定されるサクラを加藤信英氏が山形県で採集した．両親種は同じサクラ属といっても節を異にするものであり，このような雑種の発見はたいへん注目されるものである．発見者の加藤信英氏に因んで *Cerasus* × *katonis* と命名し，シンエイザクラの和名を提唱した．
2) 英文版日本植物誌のサクラ属の執筆に関係して，4 雑種の新組合せを提唱した．

(東京大学総合研究博物館)

新 刊

□東京大学：**精神のエクスペディシオン** 399 pp. 1997. 東京大学出版会．定価表示なし．

創立120周年を記念して行われた東京大学展の図録の一つ．東大で創立以来行われてきた，海外調査の数々を概観するものである．第一章は明治から戦前までの活動で，1900年代の初期に，建築史の伊藤忠太が行った．中国から横断山脈を越えてビルマ（ミャンマー）に達し，インド大陸を縦横に歩いたのちスエズをへて中東からヨーロッパへ，さらにアメリカを経て，三年を費やして帰国する大旅行の一部が紹介される．このほか鳥居龍蔵，原田淑夫，江上波夫，関野 貞など先人の業績がコメントつきで紹介されている．第二章は戦後海外学術調査のうち西アジア，アンデスの考古学的発掘，ヒマラヤ植物調査，西アジアネアンデルタール人発掘調査が要約されている．ヒマラヤ植物調査については，1960年以来の行動が簡潔にまとめられたうえ，フロラ調査の上に立った最近の研究の展開を読み取ることができる．第三章は第二章に含まれなかった現在進行中の活動として，海生哺乳類，熱帯の社会性昆虫，パプアニューギニアの人類生態調査が紹介されている．社会的背景を描きながらの当事者の文は，単なる調査報告と異なる情報がある．

(金井弘夫)

□千葉盈子：**青いケシの咲くところⅡ** 91 pp. 1997. 光村印刷．定価表示なし．

著者はヒマラヤの高山植物に魅せられて，ほとんど毎年のように旅に出ているオフィスレディーだが，写真の花の同定のためにキュー植物園までも出掛けるという熱心さである．本書では四川，雲南省奥地の花たちの見事なカラー写真が，一頁一枚というぜいたくな配置で記録されている．旅行記と共に小さな写真を並べられるより，この方がずっとよいと思うが，末尾の撮影植物のリストに産地や日付の情報があれば，記録として一層有用だろう．1990年に刊行した同名の書には，日付と国名を伴う索引があったが，本当はそれに地名や高度を付けたものがほしかった．

(金井弘夫)